

## 北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部)森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	中部森林管局・中信森林管理署・飛騨森林管理署
所在地	長野県大町市、岐阜県高山市
面積	8099.39ha(保存地区:5468.22ha、保全利用地区:2631.17ha)
設定年	平成6年3月設定
保護林の概要 (設定目的)	<p>槍ヶ岳(3,180m)、赤岩岳(2,416m)、大天井岳(2,922m)等を分水嶺とする高瀬川源流部に位置し、斜面方向は東南西となっている。急峻な地形となっていて、山地帯上部には日本海型のアカミノイヌツゲークロベ群集が発達し、標高1,600m~2,500mの亜高山帯には貧化した太平洋型の針葉樹林と考えられるシラビソ-オオシラビソ群集が発達している。亜高山性針葉樹林とハイマツ群落の中間の急斜面ではミヤマハンノキ-ダケカンバ群集が発達している。高山帯を最も特徴づける群落は、コケモ-ハイマツ群集の常緑低木林である。また、山頂周辺や山稜斜面の不安定な砂礫地には高山荒原植物群落等が見られる。</p> <p>設定理由は次の通りである。日本海型気候から太平洋型気候への推移帯である本州中部に位置する。標高が1,300m~3,200mの範囲に及ぶことから、北アルプス(飛騨山脈)を代表する原生的で多様な天然林が存在している。自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、新しい時代における森林に関する技術の発展、学術研究等に資するため、森林の生態系を保護する。</p>



### モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査、高山植生等調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査(高山植生等調査)として調査プロット(5m×5m)を1箇所設定し、プロット内に出現した種について、階層ごとに種名、被度・郡度を記録すると共に、プロット内の主要な種の分布状況を模式図で記録する。森林生態系多様性基礎調査の結果2箇所も活用する。
結果概要	<p>確認できた影響「ー」</p> <p>良好に保護・管理されている。 前回に引き続き、森林の健全性や持続性に関する課題事象はみられなかった。 ただし、登山利用者が多いことから、高山帯の脆弱な植生域における外来種の侵入を早期に把握する必要がある。 よって、引き続きモニタリングを継続することが適当である。</p>

## 白山森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・飛騨森林管理署
所在地	岐阜県大野郡白川村
面積	7,764.00ha(保存地区:3,034.84ha、保全利用地区:4,729.16ha)
設定年	平成2年4月設定
保護林の概要 (設定目的)	植生が、山地帯のブナ林、亜高山帯のダケカンバ林、高山帯のハイマツ等で原生的な天然林が広範囲に分布していること及び豪雪地帯であるため日本海型の特有の植物群落が多く見られること、又、西限と目される植物が多く植物学上からも貴重な地域である。動物では、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、イヌワシ、イワヒバリ、ホシガラス、カヤクグリ等が生息する。昆虫等も貴重種が分布している。 この原生的な天然林を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、新しい時代における森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資するため設定する。



### モニタリング調査の概要

実施年度	平成30年度
調査項目	森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査、高山植生等調査)、その他の調査等(資料調査・聞き取り調査)
調査手法	森林詳細調査として調査プロットを3箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握する。森林詳細調査(高山植生等調査)として調査プロット(5m×5m)を1箇所設定し、プロット内に出現した種について、階層ごとに種名、被度・郡度を記録すると共に、プロット内の主要な種の分布状況を模式図で記録する。
結果概要	確認できた影響「ウ:外来種、カ:その他(倒木等)」  概ね良好に保護・管理されている。 ただし、外来種の侵入情報があり、湿原というインパクトを受けやすい環境があることから、外来種に対する留意が必要と考えられる。 また、わずかであるが大径木の倒木や立枯れ木が確認されている。 よって、引き続きモニタリングを継続することが適当である。